DEX AMM型

ChatGPT

DEX : Decentralized EXchange (分散型取引所)

CEX : Centralized EXchange

AMM : Automatic Market Maker

DeFi : Decentralized Finance (分散型金融)

基本機能

- 資産管理
  - セルフカストディ: ユーザが自分のウォレットで資産を管理し、取引所に預けない。秘密鍵を保持している限り資産は自分の管理下にある。
  - ウォレット接続機能: MetaMask、WalletConnect 等で接続して利用。
- トレード機能
  - スワップ（Swap）: トークンAをトークンBに直接交換する。多くはAMM（Automated Market Maker）モデルを採用。
  - オーダーブック（Orderbook）型: 一部DEX（例：dYdX、0x系）は従来型の板取引を採用。
  - ルーティング: アグリゲーター的に複数の流動性プールやDEXを跨いで最適レートで交換。
- 流動性提供
  - LP（Liquidity Provider）機能: ユーザがトークンをプールに供給し、手数料を得る。
  - 流動性プール: AMMで価格決定。Uniswapのx*y=k、Curveのステーブル特化モデルなどが代表例。
- 価格発見と決済
  - オンチェーン決済: 全てのトランザクションがブロックチェーン上で完結。
    - 最終的に L1に書き込めばよい。オフチェーンだけしかないと無理ということらしい。
  - 価格決定ロジック: AMMの数式や、オーダーブックでの需要供給。
- その他
  - スマートコントラクトでの運営: 中央の管理者を介さずコードに従って取引。
  - 監査可能性: コントラクトコードや流動性の状況は誰でも確認できる。
  - 手数料モデル: スワップ手数料（例: 0.3%）がLPやプロトコルに分配。

インセンティブ設計: トークン報酬によるLPインセンティブ。

クロスチェーン対応（一部）: ブリッジやLayer2対応による取引範囲拡大。

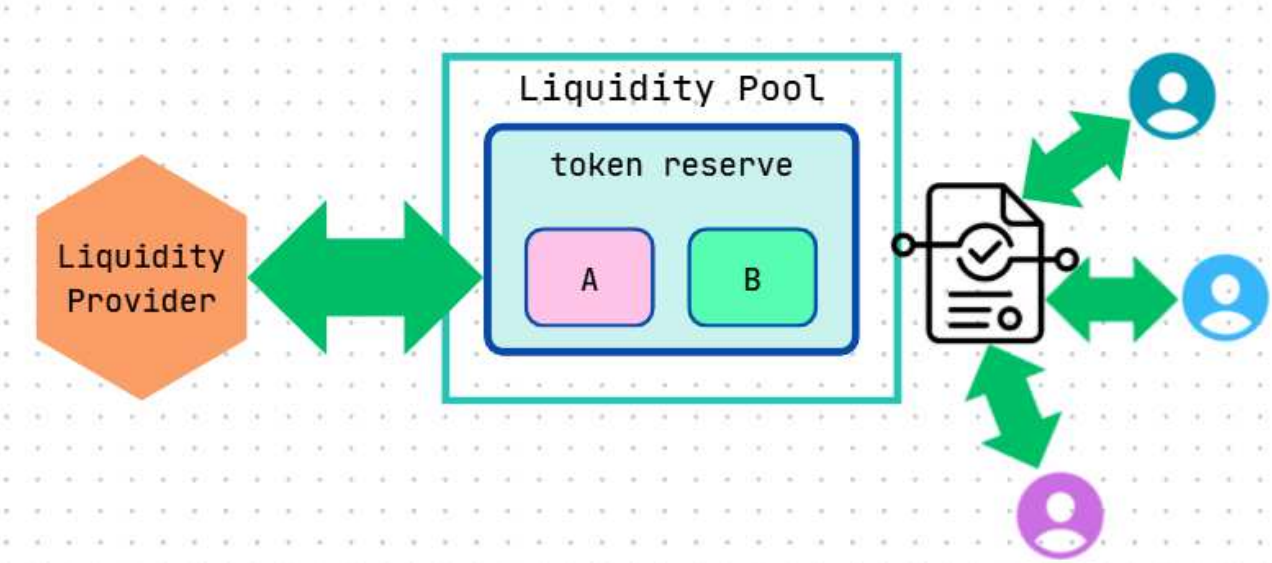
AMM

AMM - Coinpost

仮想通貨を交換するやり方の1つ。DEXで採用されていることが多い。Bancorが開発して広まった。

計算などを除けば、非常にシンプルである。

- トークン A と B がそれぞれ入った箱がある
  - 箱のことは Liquidity Pool と呼ぶ
  - トークンは Liquidity Provider が提供する
- 各ユーザは、スマコンを通して Liquidity Pool にアクセスする
  - その際、トークンA と B を渡して、その代わりに要求した量の A と B にして返してくれる。
  - 例えば、A 10単位に対して B 1単位という交換比率だった場合、Aを10単位渡して B 1単位を受け取ったり、その逆をやったりできる。
  - 比率が正しいかどうかはスマコンが判定する



交換レートを決めるのが重要なところなのだが、計算があるということだけわかっておけばよいだろう。

Liquidity Provider はトークンを預けて供給に貢献する代わりに報酬をもらうことができる。

- 手数料報酬
  - ユーザが交換(トレード)する際の手数料を、Liquidity Pool に提供した額に応じて分配
- ガバナンス報酬
  - 運営者が Liquidity Provider にガバナンストークンというプロジェクトに対しての投票権を提供することがある。

プロジェクトの方向性などに口を出す権利のようなもの

LPトークン

トークンを提供したという債券のようなもの

オーダーブック方式

取引所が行う場合によく使われる方式。

掲示板みたいな感じで「0.1ETHを50万円で売りたい」と要望を出すと、取引所がそれを買いたいという人を探し出す感じ。

スマコンで行うには、「たくさん参加者がいないとマッチングできない」「スマコンだと指示するごとにGAS代がかかる」「専門の人がいないと仲介するのも難しい」などなどで不向き。

最近の傾向について

2025/10/15

ChatGPT 2024年辺りの情報か？

Grok こちらは最近の情報だけか

永久先物取引(Perp DEX)について触れている